

大野から最先端AI技術を世界へ

代表取締役社長CEO 後藤 秀隆氏



松屋R&D

大野市鍛掛20-1-2

昨年は4月に東証マザーズに上場し、コロナ禍には機敏に対応して医療用の防護服を生産。さらにベトナムでマツヤインベーションセンター（MIC）が稼働を始めて研究開発体制も強化され、今年には新技術・事業分野の開拓を加速させる。事業の主力の一つがソレーシングのオートメーション化だ。欧州やアジアでエアバッグやカーシートなどの製造を自動化しており、核となるAI（人工知能）を搭載した最先端技術の追求には一層力を入れる。その戦略は大

野で立案し、実際の研究開発を担うのがMICだ。「現状はAIや設計、ソフトウェアの専門家12人の体制だが、今年後半には30〜50人に拡大し、新分野を開拓したい」。もう一つの主力、血圧計の腕帯で世界シェアの半分以上を握るメディカルヘルスケア部門でも、「ウェアラブルで心拍や酸素濃度などをチェックできる機器の開発や、心臓の人工弁を縫う作業の自動化などに取り組みたい」と展望する。新分野では、有人機にも対応するドローン用エアバッグ

の開発にも注力している。さらに「今年は積極的にM&A（企業の合併・買収）もやっていきたい」。産業用資材や縫製業者など自動化の導入効果が大きい業種に加え、ジーンズやスニーカーの製造などの業種を視野に入れる。高度化された技術の導入により、生産拠点の国内回帰に貢献する青写真も描いている。どの事業も「単なるロボットや自動車部品の製造ではなく、独自技術による自動化ライン構築などで持続的な成長を図ることが重要だ」と強調。多彩なチャレンジに「今年には実績を出していきたい」と力を込める。